

れきしみち

2021.4
No.120

とうみ
唐箕

踏水車

まんこく
万石

農耕風俗画卷
(本館蔵)

特集 企画展「安城の今昔3 お米のモノがたり —知恵と工夫のむかしの道具—」

P4
連載「安城歴史散策
風を感じて歴史を歩く7」

P5
松平シンポジウム報告 [1]

P6…「安城歴史研究」を活用した授業の紹介
P7…企画展関連イベント、春の催し案内
P8…安祥文化のさと会員の案内、市民ギャラリーよりお知らせ

安城市
歴史博物館

Anjo city Museum of History

令和3年度

安祥文化のさと会員 大募集!

「さと会員」は、安祥文化のさとを楽しむための
“ファンクラブ”のようなものです。

展覧会をお得に何度も観たい。どんな催しがあるか知りたい。
歴史やアートをもっと身近に感じたい。などなど…
「さと会員」になって、安祥文化のさとをまるごと楽しんでみませんか。

歴史博物館や
市民ギャラリーの
最新情報を
お届け!

特典

入会について

- 1 安祥文化のさと(歴史博物館、市民ギャラリー、安城市埋蔵文化財センターなど)の最新情報をお届け!
- 2 歴史博物館の常設展観覧料が年間通じて無料!
- 3 歴史博物館の有料展示観覧料が2割引!
- 4 入会特典「ぶらす珈琲店のお食事・ドリンク500円分割引」!
- 5 会員限定「さとスタンプラリー」にチャレンジ
スタンプの数に応じた記念品をプレゼント!

[入会受付] 令和3年4月1日(木)～[受付場所] 安城市歴史博物館 受付
[申込み] 当館受付かお振込みの2通り。詳細はお問合せください。



安城市民ギャラリーよりお知らせ

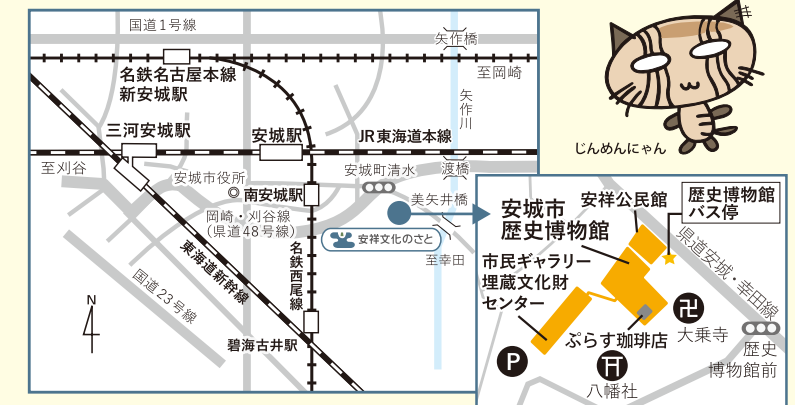
市民ギャラリー企画展「人物像の深遠」



乃村豊和《なにごころないまなざし(休息するレリーナ)》

市内在住の「人物」をテーマに表現する2人の作家を紹介します。それぞれの作家が、独自の道を切りひらき、個性ある作品を制作する足跡をご覧ください。

[開催期間] 令和3年6月26日(土)～7月10日(土)
[時間] 9:00～17:00(入館は16:30まで)
[場所] 展示室D・E
[観覧料] 無料



安祥文化のさと 「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

全館共通事項 住 所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館
開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市埋蔵文化財センター
開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー
開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安祥公民館
開館時間 / 9:00～21:00
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館
【URL】 <https://ansyobunka.jp/>



お米のモノがたり

知恵と工夫のむかしの道具

観覧無料
令和3年
4月3日(土)～6月27日(日)

日本は、太古より二〇〇年以上米を作り続けており、多くの道具が生まれました。鍬や鎌など、現在でも基本的な形は変わらずに使われているものもあります。一方で江戸時代に発明された唐箕や、明治時代に発明された足踏脱穀機など多くの道具は、先人たちの知恵と工夫により機能的な形を持ち、完成度の高いものでしたが、昭和三十年代以降の機械化で姿を消してしまいました。

今回の展覧会は主に、本館に寄贈された民具のうち、機械化されるまで市域で使用された米にまつわる道具を紹介します。

米作り一年

米作りは、春の田起こし、代かきに始まり、田植え、夏の水管理、除草、秋の稲刈り、脱穀、冬の籾摺り、選別、保管と、一年を通して作業があります。

昭和三十年代頃までの米作りは手作業が主であり、特に膨大な時間と労力が必要な田植えや稲刈りなどは、家族や親戚、近所の人と協力して行いました。きつい農作業を少しでも能率的に行うため、時代とともに改良された道具を取り入れていきました。例えば、足踏脱穀機はそれまでの千歯抜きとは比べ物にならないほど作業能率が良いものだったので、大正期に急速に普及しました。市域では昭和初期に牛耕が行われるようになり、やがて多くの作業が機械化されていきました。

一 田起こし・代かき

昭和三十年代頃の米作りの作業は一般に、稲の品種の違いにより、今より一〜二か月以上遅く始まりました。四月中旬から田んぼの土を掘り起こし、細かく砕く「田起こし」をします。その後、田んぼに水を張って土の表面を平らにする「代かき」を行い、田植えの準備をします。



犁

二 田植え

六月下旬から七月上旬には、苗代で育てた苗を田んぼに運んで田植えをします。昭和四十年代に機械化されるまでは手植えであったため、田植えはかなりの重労働でした。田んぼの両端に田植竹を立て、田植縄に等間隔に付けられた印の場所に植えていきます。田植えの時期、学校は「農繁休暇」となり、子どもを含め家族総出で作業しました。田植え後には村ごとに二日間の農休みがありました。



田植縄と田植竹

三 水管理

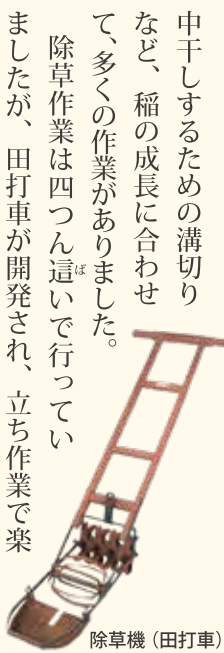
稲の成長にあわせて田んぼに入れる水の量を調整します。現在のように田んぼが整備されておらずパイプラインもなかったため、竜骨車や踏水車などの道具を使って用水路や溜池から田んぼに水を入れる必要がありました。



踏水車

四 除草

田植え後一五日過ぎるころからお盆前までに三、四回除草作業をします。また、追肥、ヒエ切り、虫対策、



除草機（田打車）

中干しするための溝切りなど、稲の成長に合わせて、多くの作業がありました。

除草作業は四つん這いで行っていたが、田打車が開発され、立ち作業で楽になりました。田打車は稲株の間隔を揃えて植える正条植えとともに普及しました。

五 稲刈り

十一月上旬から稲を刈ります。腰をかめて鎌で刈っていたため、かなりの労力が必要でした。

腰まで浸かってしまうような湿田では、刈った稲を濡らさず畔に運ぶのに田舟を使いました。フクジ（福地）と呼ばれる台地下の沖積低地、主に矢作川右岸、油ヶ淵周辺及び油ヶ淵に注ぐ河川周辺では、昭和三十年代まで使用されていました。



田舟

六 脱穀

刈取った稲は、一〇日程度よく干し、稲穂から籾を離す「脱穀」をします。脱穀の道具は、江戸時代の竹製二本刃の扱箸から竹製複数刃の千歯抜き、金属刃の千歯抜き、明治期に回転式の足踏脱穀機、そして昭和初期に動力脱穀機へと改良され、効率化されました。



足踏脱穀機

七 籾摺り・選別

脱穀した籾は、薙に広げて丸二日干します。この時期には、どこの家でも庭にたくさん薙が広がっていました。十二月上旬頃には、土臼を使って籾から籾殻を取り除いて玄米にする「籾摺り」を行い、その後、唐箕や万石を使って籾殻やゴミを取り除く「選別」をします。



唐箕

八 保管

出荷する米は俵に入れ、家庭用は一人三俵を一年分の目安として大きな缶で保管しました。春から行ってきた米作りの長い作業がこれで終わります。



貯穀器

九 藁細工

米を生産及び精製する過程で、藁や籾殻など稲はいくつかの副産物をもたらします。これらの副産物を、先人たちは無駄にすることなく生活全般に活用してきました。

農作業では縛るための縄、敷くための蓆、保管のための俵や唄、運搬のためのもっこなどに用いられました。



蓆織機

岩槻信治の品種改良

米を安定的に多収穫栽培するために重要なのが品種改良です。大正から昭和の前半、碧海郡安城町（市内池浦町）にある愛知県農事試験場において、稲の優良品種を次々と作り上げ、「稲の神様」と敬慕されたのが岩槻信治でした。

岩槻は明治二十二年（一八八九）碧海郡中園村（岡崎市中国園町）に生まれました。高等小学校を卒業したのち愛知県立農林学校（現在の愛知県立安城農林高等学校）へ進学し、首席を通しました。明治三十九年に一六歳で母校の高等小学校の教員となりましたが、その年の冬には山崎延吉の勧めで愛知県農事試験場に入りました。岩槻は多収性、良質性の点で優れた品種や、いもち病、白葉枯病に抵抗性のある品種を三〇余種類作り上げ、米の増収に貢献しました。また、試験研究の成果が実際に生かされるよう、各地に出向いて実地指導や講演会を行いました。碧海郡は地元ということもあり、どこよりも早く優れた稲作技術を農家が身に付け、日本デンマークの名声を高める基となりました。

昭和二十三年（一九四八）、種芸主任在任中に五八歳で急逝しましたが、岩槻が育成した稲の品種のうち、多収性の「金南風」は昭和三十三年から四年間、作付面積が全国一位となりました。それらの品種は現在では姿を消しましたが、岩槻の後継者たちが育てた「日本晴」は昭和四十五年から九年間、作付面積が全国一位となりました。



岩槻信治（愛知県所蔵）

風を感じて歴史を歩く7

— 東部小学校区① —

『ひらき』と「郷土の日」

東部小学校には、学校独自の郷土読本『ひらき』があります。この本を基に、毎年、学年毎に地域を廻り歴史を学習する「郷土の日」を設けています。「ひらき」は、漢字で「平貴」と書き、現在の大岡町・高木町・北山崎町のことを、そう呼んでいます。

明治二十二年（一八八九）から安城町に合併する明治三十九年まで平貴村と呼ばれた時期がありました。これは、平田荘（現在の東別所、西別所、別郷、高木、大岡、北山崎、山崎



郷土読本『ひらき』

町も含まれていた」と志貴荘（現在の三条・法連・浜富町も含まれていた）というかつての荘園の一字ずつをとって名付けられたと言われています。

大岡白山神社

東部小学校正門から西の方へ下がつて右折し県道を渡り真つすぐ行くとすぐに神社に到着します。大岡白山神社は、上条白山媛神社、桜井神社と合わせて三河三白山と言われています。松平清康（徳川家康の祖父）に従った家臣の家族が御百度を踏んで武運長久を祈ったとされています。

天文二年（一五三三）清康によって建立されたものの兵火により焼失しました。本殿は、永禄十年（一五六七）に家康によって再建されたと言われます。現在では安城最古の建造物となっています。神社にはかつて源覚寺という神宮寺（神社に付属して建てられる寺）がありました。廃仏毀釈によって取り壊され、流失した仏具が市内新田町の慈光院に伝わっています。

高木氏発祥の地

大岡白山神社境内を東から出て県道を横切り高木氏発祥の地に向かいます。今は市指定史跡としての案内板があるだけです。この地に居館があったとされる高木清秀は徳川十六神将に数えられる武勇に秀でた武士でした。清秀は、刈谷城主水野信元に仕え、三河一向一揆の時も水野家に属して一揆側と戦いました。清秀は家康の直属の部



山崎城址（神明社北側の堀跡）

四つ目の赴任地、安城東部小学校区には、多くの史跡、文化財があります。三回に分けての連載で学区の歴史散策をしていきます。

下ではありませんでしたが、家康はその働きぶりに対して高木家の故地である三河国大岡郷の地に、高木名と言われた名字の田を与え賞賛したと言われています。清秀が家康の家臣となるのは本能寺の変の後でしたが数々の軍功を挙げ出世しました。天正十八年（一五九〇）、家康の関東移封に伴い三河を離れ、晩年は相模国高座郡海老名村（現在の神奈川県海老名市）に隠居しました。息子の正次が治めた河内国丹南藩（藩庁は現在の大阪府松原市丹南にあった）は明治維新まで高木家が藩主でした。

山崎城址（山崎神明社）

東部小学校を右手に眺めながら、さらに南進すると山崎城址にたどり着きます。山崎城は、安城合戦にとって戦略上大変重要な城でした。碧海台地の端に位置し見晴らしがよく、岡崎城側からの攻撃を察知することができました。安城城の出城として機能していました。

山崎城は松平信孝（松平広忠の叔父）によって築かれた城です。父、清康の死後、各地を転々としていた広忠は、信孝の協力もあって岡崎城に帰還することができました。しかし、信孝は広忠から領地を奪われ、広忠から離反して織田側に付きました。天文十七年、信孝は、広忠の岡崎城を攻めましたが矢に射られて戦死しました。その後、織田信秀が誰に山崎城を守らせたか分かりませんが、翌年、今川軍に安城城を攻め落とされた後、山崎城も落城しました。

第10回 松平シンポジウム

偕々広忠ハ良将ト感シ給フ

— 広忠惣領時代の再検討 —

<1>

令和三年二月十四日、安祥公民館において第10回松平シンポジウム「偕々広忠ハ良将ト感シ給フ」広忠惣領時代の再検討」を開催しました。

本タイトルは「松平記」にある言葉です。織田信長の父信秀が人質の竹千代（後の徳川家康）の命と引き替えに、織田方に属すよう広忠を誘いましたが、竹千代が殺されても今川方と不和になることはしないと断固拒否した広忠の信念に、誠に良将ではないかと、信秀は敵ながら感心し、竹千代を殺すことはしなかったという一説です。竹千代が人質になる経緯は、天文十六年（一五四七）九月に信秀が岡崎城を攻めて降伏させ、広忠が竹千代を差し出したという説が現在有力ですが、そうなると事情が変わります。

今までの広忠の評価は、松平一族を牽引することができず、今川と織田の両勢力の狭間でどうにか家を存続させた、松平氏存亡の危機を招いた人物としてのイメージが強く、家康やその祖父清康期の松平氏が躍進した時期とは対照的に捉えられています。果たして本シンポジウムではいかに評価されるのでしょうか。コーディネーターに村岡



幹生氏（中京大学教授）を招き、村岡氏が広忠の代替わり前後の状況について、平野明夫氏（國學院大學講師）が広忠期の支配に関する史料について、大石泰史氏（大石プランニング主宰）が今川氏による吉良・松平氏ら西三河国衆の支配などについて基調報告をされました。ここでは、はじめの村岡報告の要旨を速報します。

今回はコロナ禍の中での開催のため、聴講希望者を抽選制とし、シンポジウム会場には四〇名、リモート会場（歴史博物館講座室）には三〇名の計七〇名で行いました。また、村岡氏が会場で、平野氏・大石氏は自宅からの中継による初めての試みでした。

天文四年（一五三五）十二月の広忠の父清康の横死（守山崩れ）があったことを前提とする。まず、清康の尾張国守山（名古屋市中山区）への出陣の目的について、美濃・駿河を巻き込む織田信秀攻撃説では駿河今川氏は東の北条氏との戦争中で、美濃は長良川の大洪水と六角氏・朝倉氏の軍が侵入した大乱状態であるため不可能とした。信定攻撃説は、守山城主が大永六年（一五二六）以来、安城城主でもあった桜井の松平信定で、彼の認知がなければ清康の出陣は不可能である。清須守護代家中の和睦仲介説は知名度が不確かな清康に依頼することは想定できないとした。

村岡報告

「守山崩れと広忠岡崎入城時期の再検討」



さて、村岡氏の説に対して、平野・大石氏はどのように広忠を評価するのでしょうか。紙面の都合上、お二方の報告、そして討論は次回以降となります。ご期待下さい。

村岡氏は、清康の守山出陣を「化粧出陣」とした。これは、それまで対立関係にあった清康と信定が和解し、安城松平家の家督を継承したことを尾張守護代家に報告するための出陣であったとし、和解によって松平氏内部での清康家中の独立性や発言権が脅かされるのを嫌った阿部大蔵による画策として、阿部大蔵黒幕説を提示した。

守山崩れののち、広忠は阿部大蔵とともに伊勢に逃れ、家督は信定が継いだ。その後清康弟の信孝へと家督は継承されるが、広忠が岡崎に帰還し、元服後も当主は信孝のままであった。天文九年春以降に広忠へ家督が継承され、これにより阿部大蔵政権が誕生し、信孝を排除、尾張との絶縁を行ったのではないかとした。

歴史博物館 春の催し物案内

企画展「お米のモノがたり」関連の催し

記念講演会

参加無料

「米づくりをめぐる民俗とその歴史」

[日 時] 5月22日(土) 14:00～
[講 師] 久保禎子氏(一宮市尾西歴史民俗資料館学芸員)
[定 員] 30名(先着順)
[申込み] 5月7日(金) 9時～電話にて受付

歴博講座

参加無料

「江戸の完全リサイクル社会」

[日 時] 6月12日(土) 14:00～
[講 師] 日倉めぐみ(本館職員)
[定 員] 30名(先着順)
[申込み] 5月28日(金) 9時～電話にて受付

関連イベント

参加無料

「東尾農業倉庫と農具実演見学会」

[日 時] ①4月25日(日) 10:00～
②5月30日(日) 10:00～
③6月20日(日) 10:00～
[定 員] 各15名(先着順)
[集 合] 歴史博物館 受付
[申込み] 各回電話にて ①4月6日(火) 9:00～ 協力: 東尾町内会
要事前申込。 ②5月6日(木) 9:00～
③6月4日(金) 9:00～

「お米づくりではたらくキカイ大集合!」

[日 時] 5月3日(月・祝) 10:00～15:00 協力: JAあいち中央

「お米のモノクイズ」

[期 間] 4月3日(土)～6月27日(日)

連続講座

「村絵図で巡る安城今むかし」

[内 容] 村絵図に描かれた場所を実際に歩き、当時の様子と比べます。
[日 時] ①4月24日(土) ②5月15日(土) ③5月29日(土)
④6月 5日(土) ⑤6月19日(土) ⑥7月 3日(土)
13:00～17:00(全6回)
※うち座学1時間程度、村歩き2時間程度
[講 師] 高山忠士氏(本館元館長)
[定 員] 10名(先着順)※全回参加できる方
[料 金] 1,500円(6回分/資料代含む)
[申込み] 4月9日(金) 9時～電話にて受付



歴史体験講座

「姫きものを作ろう」

[内 容] 正絹の着物生地で、高さ32cm、横幅27cmの小型サイズの本格的な姫きものを製作します。
[日 時] ①5月7日(金) ②5月21日(金)
③6月4日(金) ④6月18日(金)
⑤7月2日(金) ⑥7月16日(金)
10:00～12:00(全6回)
[講 師] 榎原清美氏(古製美術工房)
[定 員] 10名(先着順)
[料 金] 5,000円(6回分)
※別途材料費3,000円～4,000円必要
[申込み] 4月7日(水) 9時～電話にて受付



入門講座

「古文書手ほどき」

[内 容] 古文書の初歩的な読み方を指導します。
[日 時] ①5月 8日(土) ②5月22日(土)
③6月12日(土) ④6月26日(土)
⑤7月10日(土) ⑥7月24日(土)
⑦8月14日(土) ⑧8月28日(土)
10:00～12:00(全8回)
[講 師] 三島一信(本館学芸員)
[定 員] 15名(先着順)※全回参加できる方
[料 金] 1,000円(8回分/資料代含む)
[申込み] 4月23日(金) 9時～電話にて受付



イベント

参加無料

「懐かしの“車” 写生大会&写真撮影会」

[内 容] 1970年代を中心とした国内外の懐かしい車が安祥城址公園に集合します。写生や写真撮影をしませんか。
[日 時] 4月10日(土)※雨天順延(翌11日開催)
10:00～15:00
〈受付〉10:00～14:30
[監 修] 石井成久氏
[対 象] 写生大会/小学生以下
撮影会/どなたでも
[持ち物] 水彩絵の具、クレヨン等の画材、画板、目玉クリップ
※画用紙は当日配布
[申込み] 当日受付



4月24日(土)～5月5日(水・祝)にて、写生した作品と撮影した作品を安城市民ギャラリーで展示します。

子どもの日 フォトスポット
4月29日(木・祝)～5月5日(水・祝)
端午の節句の記念にフォトスポットで撮影をしませんか。
[時間] 9時～17時

さとのマルシェ
飲食のキッチンカーから雑貨やクラフトの店舗まで集うマルシェを開催!
4月3日(土)、5月1日(土)
10:00～15:00
協力: FEEL FREE

常設展示 無料開館デー
5月16日(日)
国際博物館の日(5月18日)にちなみ常設展が無料となります。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により催しに変更が生じる可能性があります。最新情報は、本展HPをご確認ください。



『安城歴史研究』を活用した授業の紹介



『安城歴史研究』とは歴史愛好家の研究発表のための雑誌です。安城における歴史研究の成果を集録し、安城市の歴史文化の発展に寄与するために制作されています。

『安城歴史研究』を活用した授業の風景



第33号「江戸時代の農村における世帯構成―岡崎領尾崎村の場合―」(中筋孝氏著)の資料をもとに、安城市立東山中学校で授業が行われました。中学校2年社会科歴史分野の江戸時代の学習を進めるにあたり、「どこか遠くの知らないところではない地元」の資料から課題をもつことがねらいでした。人口ピラミッドの変化から、「一体何があったのか」生徒は想像を巡らせ、「戦があった」「病気がはやって」「夜逃げした」「出稼ぎに出た」などの意見が出されました。そして、それらを確かめるために、「農民の生活はどう変化しているか」「どんな事件があったのか」などを課題として設定し、その後の授業を進めていきました。

江戸時代の学習後、生徒は次のような振り返りをしました。

「尾崎町に住む人の生活の変化を調べよう」という課題を設定し、学習を進めました。江戸時代には、農業の道具が改良されたり、商品作物が作られたりと、新しいことやものが出てきたことを知りました。でも、尾崎町の人口が減っていた1836年ごろは天保のききんのころだから、不作が続いて餓死や夜逃げがあったんじゃないかなと思います。教科書の内容が身近なところにも関連しているとわかって、おもしろかったです。

実感のある学びをしていることがよく分かります。

指導者の杉山也寸史教諭は、次のように述べています。

歴史の教科書の内容は、「どこか遠くで起きた出来事」と生徒は捉えがちです。それは、時間軸としての遠さだけでなく、空間軸としての遠さを感じている場合もあります。それでは、自分に関連させて、「どうしてだろう」と疑問をもったり、「調べてみたい」と意欲を高めたりしていくことはなかなかできません。その点、地域に残る歴史的資料は、自分と関連させやすく、課題も身近なものとなっていくます。

今回、尾崎町の人口の変化を読み取り、生徒それぞれが課題を設定しました。それは、江戸時代をより身近な時代として捉えるために、有効だったと思います。江戸時代に生きた人々の生活に思いを馳せ、教科書の内容と関連させていく、まさに社会的な見方・考え方を働かせるための一助となりました。

地域には、まだまだたくさんの教材があるはずです。教材研究に励み、生徒が歴史を自分事として学ぶ機会をつくっていききたいと思います。

今後、学校教育や生涯教育の場で『安城歴史研究』が活用されることを期待します。

「安城歴史研究」第46号が発行されました!
安城市歴史博物館受付にて販売しています。
通信販売でも購入できますので、お問合せください。
安城市歴史博物館 ☎ 0566-77-6655



87頁 1,200円